

私の名前は  
阿藤羽海  
(あととうみ)

この春  
北関東の片田舎から  
都内の大学に通う為  
上京して

一人暮らしを  
始めたばかりの  
大学生である

未だに一人暮らしに  
慣れない私はしよっちゅう  
実家を思い出しては

母 ↓  
妹 ↓  
感傷に浸っていた

父 ↓ 私 ↓  
チャッピー

チャッピーに  
合いたい...

ハア...

フ...

しかし  
家族に会えない  
寂しさも

ウミ  
ちゃん

あ  
優ちゃん  
ノアさん

入学して早々にできた  
2人の友人のおかげで  
紛れていた

帰り3人で  
一緒に  
課題やらない？

駅前のスタ○  
とかで良いかも

上嶋 希空 こと  
ノアさん

そしてもう一人は  
社長令嬢でお嬢様な

石田 優 こと  
優ちゃん

陸上部所属で  
姉後肌の

タイプの違う3人  
だったが  
何故かうマが合い

よく一緒にご飯や  
遊びに行ったり  
していた

そして

あ

おっい  
飯塚くん

飯塚君も  
一緒にスタ○で  
課題やらな〜い？

いつ?!

せろ..

いや..  
あの..

ちよっ..

優ちゃん!?

彼の名前は  
飯塚 コウタ

俺は  
その..

ええ  
良いじゃ〜ん♡



私が今一番  
気になってる  
男の子である

あ  
逃げた♡

じゃあ  
じゃあ

その  
ハハ

そういう  
事で

...



フフ

私の飯塚君への気持ちを知っていた優ちゃんは私の目の前でよく彼をからかっていた

彼絶対  
童貞よね♡

でも  
超ウケる♡

ハハ  
ゴメンてw

も...  
優ちゃん



中高一貫の女子校に通っていて男子に免疫の無い私にとって

まったく  
も...

飯塚君の素朴で優しそうな雰囲気は何故か魅力的に映ったのだった

後から聞いた話だと  
男子校に通っていた  
彼も

ヤベー・・・  
アトーさんと  
目合っちった♡

童貞には  
刺激が  
強すぎる

同じような理由で  
私の事が  
好きだったらしい

今思えば  
この時に  
勇気を出して  
彼にアプローチ  
していれば  
私は・・・

友人たちと別れた後  
私は日課である  
スーパーでバイトしていた

ケニーさん

ここの  
商品の事  
なんですけど

ああ  
それはね...

新人である私に  
仕事を教えてくれている  
先輩従業員は

32歳の主婦  
清水 恵子さん

美人なのに  
滅茶苦茶優しく  
気さくな先輩だ

わ

以前見せて  
もらった旦那さん  
の写真が飯塚君に  
似てる事もあり

飯塚クンに  
超似てる

一回り上の  
恵子さんに  
親近感を  
感じていた

そんなケーコさんとの  
楽しい時間も  
ある人物のおかげで  
台無しになる

ケーコ  
ちやーん♡

う

ギョ

勤務中におしやべり  
してちやダメ  
じゃなく♡

それがこのスーパーの  
店長 小峠 伝介 (59)  
である

えり？  
本当にイ？w

そのどことなく  
不快な容姿と  
酷いセクハラ癖で

い・いや  
普通に仕事の  
打合せしてた  
だけですよ

私も含めた全女性従業員に  
こっぴどく嫌われていた

ギョ

ただ私自身は  
まだセクハラ被害を  
受けて無かった

あ

何故なら

マリア  
さん

え!?

キクッ..

なーんだ  
いないじゃ..

うわあ  
ああ!?

元ヤンとの噂の女性社員  
三橋 マリア(32)  
さんがいたからである

キクッ..

本当に  
懲りねーな

チツ...

じゃ..じゃあ  
他に仕事あるから  
失礼するね♡

ケーコさん曰く  
マリアさんが  
半年前に入社してから

彼女は毎日  
セクハラをする店長に  
威圧を掛けていた  
らしい



そのせいか  
店長はすっかり  
委縮してしまい  
女性従業員に対しての  
セクハラはめつきり  
減ったらしい

まああの店長は  
置いておいて

ちよっと  
商品について  
訊きたいん  
だけど

あ・  
ハイ

おかげで私は  
平穩無事に  
このバイトを  
続ける事ができていた

ぴりぴり

フッ

フッ

んっ

そんな感じで  
楽しい大学生活を  
送っていた私には  
ある日課があった

それは  
オナニーである

クニゅ

クニゅ



中高一貫の女子校出身のせいとか交際経験0で丸っきりの処女だった私だが性欲は人並み以上であり

せつ...ん...

小学校高学年頃から家族に隠れてする様になっていた

大学に入るまではお気に入りのおイケメンアイドルで妄想していたが

コータ君♡

ここ最近では飯塚君とエッチする妄想で自分を慰めていた

ウミ♡

そして――

後で聞いた話によるとこの時期飯塚君も

アトーさん

私を想ってオナニーをしていたという

そんな  
悶々とした  
日々を  
送っていた  
ある日

ツ……

せ……

私は偶然  
ケーコさんと店長の  
不倫現場を目撃  
してしまう

うへへへ♡

レロオ!

せり

ダツ……メ



丸きり状況が  
呑み込めず  
パニックになる  
私だった

え？え？  
どーしよう？

清楚で  
優しく  
憧れだった

あの  
ケーヨさんが

心の底から  
嫌悪する店長と  
恍惚とした表情で  
セツクスする場面は

あ

あまりに衝撃的過ぎて  
その場から一切  
目を離せなかった



そして初めて見た  
生のセックスに  
当てられ

ゴク..

興奮した私は

誰も

周囲を入念に  
警戒すると

来ない  
よね?

その場で  
オナニーした

ん  
ん  
ん

せん

スゴ..  
めっちや  
濡れてる

ク  
チュ..  
ン



ハッ

ほっ

ハッ

ハッ

やがて



おっ

ハッ

私と  
ケーコさんは

ほぼ同時に  
絶頂した

せ

ク  
ハッ

ハッ



まさか店長に  
その様子を  
見られているとも  
知らずに……

急いでその場から  
立ち去った

そそくさ〜

そそくさと  
身支度を整えると

わっ  
何やってんだ私

それから  
我に返った私は



それから数日  
気まずさから  
私はケーコさんの  
顔を見る事ができず



バイト中は  
ずっと彼女との  
接触は避けていた

しかし  
それに反して

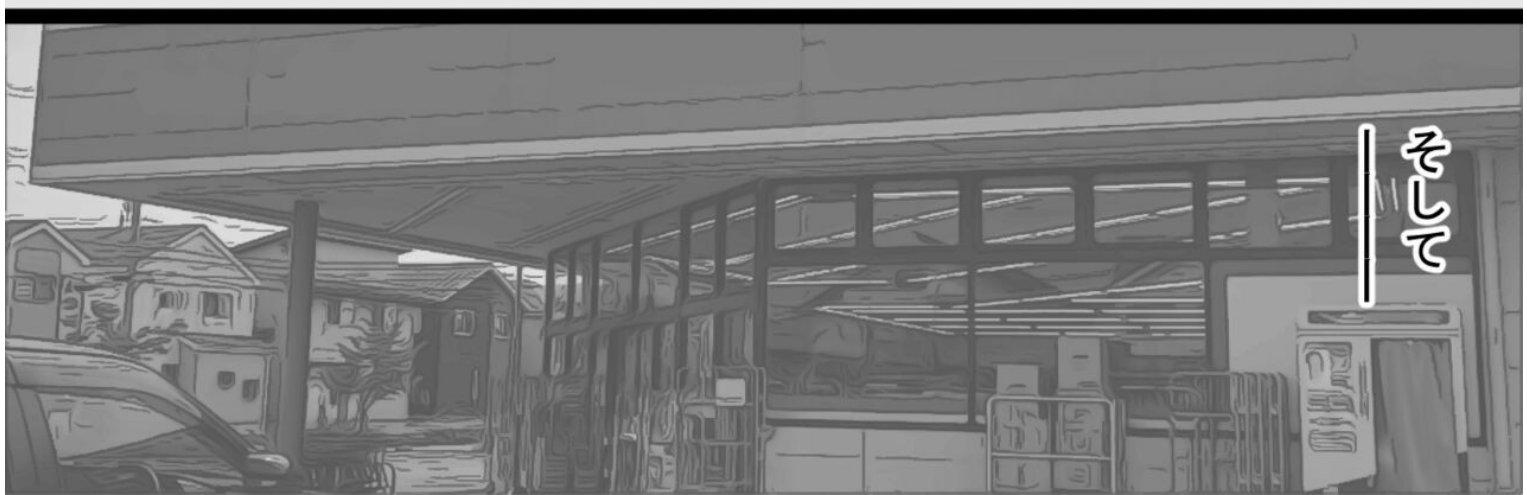
くうっ  
せっ

オナニーの回数  
が飛躍的に増えていった



ケーコさんと  
店長のセックス  
の光景が私の  
頭から離れず

そして



その日  
ケーコさんと  
マリアさんの  
2人は非番で

私は一人  
倉庫で  
作業を  
していた

店長が  
その日を  
待ち望んでいた事  
も知らずに

アトーチちゃん♡

!?

店長は狙いすました  
かの様に私に  
近寄ってきた

は・・はい  
何でしょうか？

いやね  
確認したい  
事があった

アトーチちゃんさ

私は今すぐにも  
逃げ出したかったが

勇気を振り絞って  
要件を訊くと

この前  
この倉庫前で・・・

オナニー  
してなかった？ W

え・あ・あ・  
いや・  
違っんです！

あ・あ  
それは・

今の所  
僕しか確認  
してないけど  
どうしようかなw

え〜？w  
バッチリ  
防犯カメラに  
映ってたよ？w

今考えれば  
店長の  
明らかかな  
ウソ  
だったか

ええ・・？  
どうしよう  
どうしよう

どうしよう  
どうしよう  
どうしよう

私は頭が  
真っ白に  
なり・

まあ

バレたく  
なかったら

一つ提案が  
あるんだけど

実はね  
・  
・  
・



気が付くと  
何故か私は  
ラブホテルにいた

ど...  
どうして?!

どうして  
私はこんな  
場所に...!?

そして

ガチャ

キヤツ  
!?

フッ  
さっぱり  
したw

シャワーを浴び  
全裸になった店長が  
出てきた

アトーちゃん  
もどう?w

嫌あ...  
何でこんな...?

すぐに  
逃げ出さなかった  
事を死ぬほど後悔するが

何故か私は一瞬見えた

店長の勃起したペニスが  
頭に焼き付いて離れなかった





不意を突いた店長は  
私の両手を拘束すると



その凶暴な肉棒を  
私の目の前に突き出した

初めて生で見る  
ソレは



ああ  
...



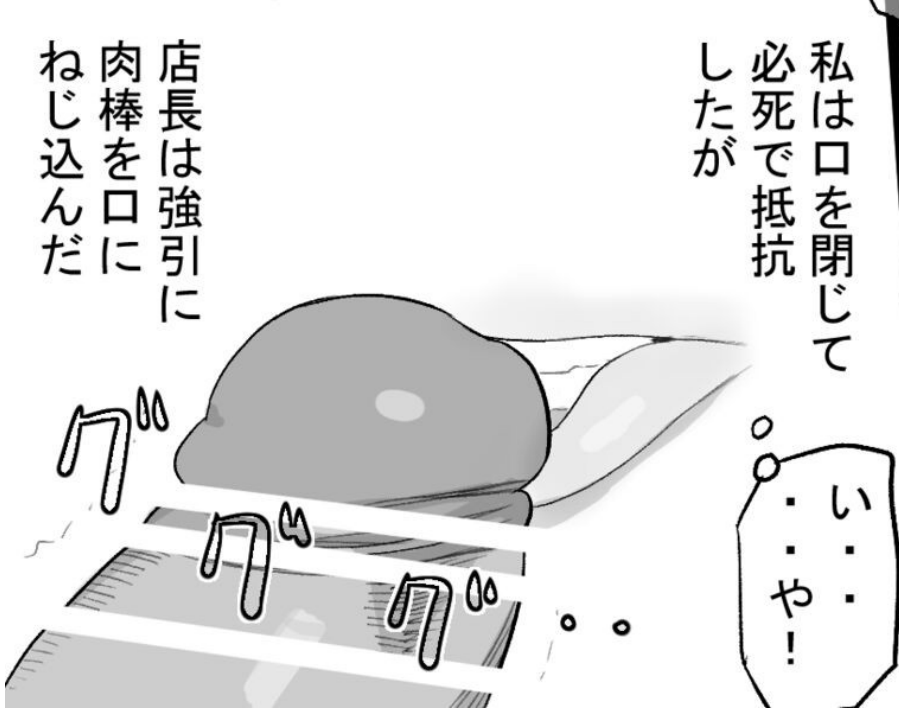
凶悪な形と大きさを  
独特の臭いがした



ホラ  
啜えて♡

私は口を閉じて  
必死で抵抗  
したが

い...  
...  
や!



店長は強引に  
肉棒を口に  
ねじ込んだ

おほ〜♡

入れた瞬間  
店長は容赦なく  
腰を振り

い・や・

アトーちゃんの  
ロマンコ最高♡

ズ!

ズ!

ズ!

ズ!

ズ!

ズ!

あゝ  
出る出る

ズ!

私の口の中で  
大量に射精した

グ!

ズ!

!!!

せ!

!!

熱くて生臭い物が  
一回杯に拡がり

ゴホッ

ううっ

私は思わず回の中の  
精液を吐き出すと

すると

その隙をついて  
店長が素早く  
私のスカートを脱がせ

やっ!?

!!

私の  
女性器が  
露わになった

そしてすぐさま  
私の股に顔を  
突っ込むと

グハ  
グハ

せつっ

やっ・

やめて  
下さい！

あゝアトーちゃん  
やっぱ処女なんだ♡

トロっ

ほっ

それに  
フェラしただけで  
こんな本気汁が・

じゃ  
いただきまーす♡

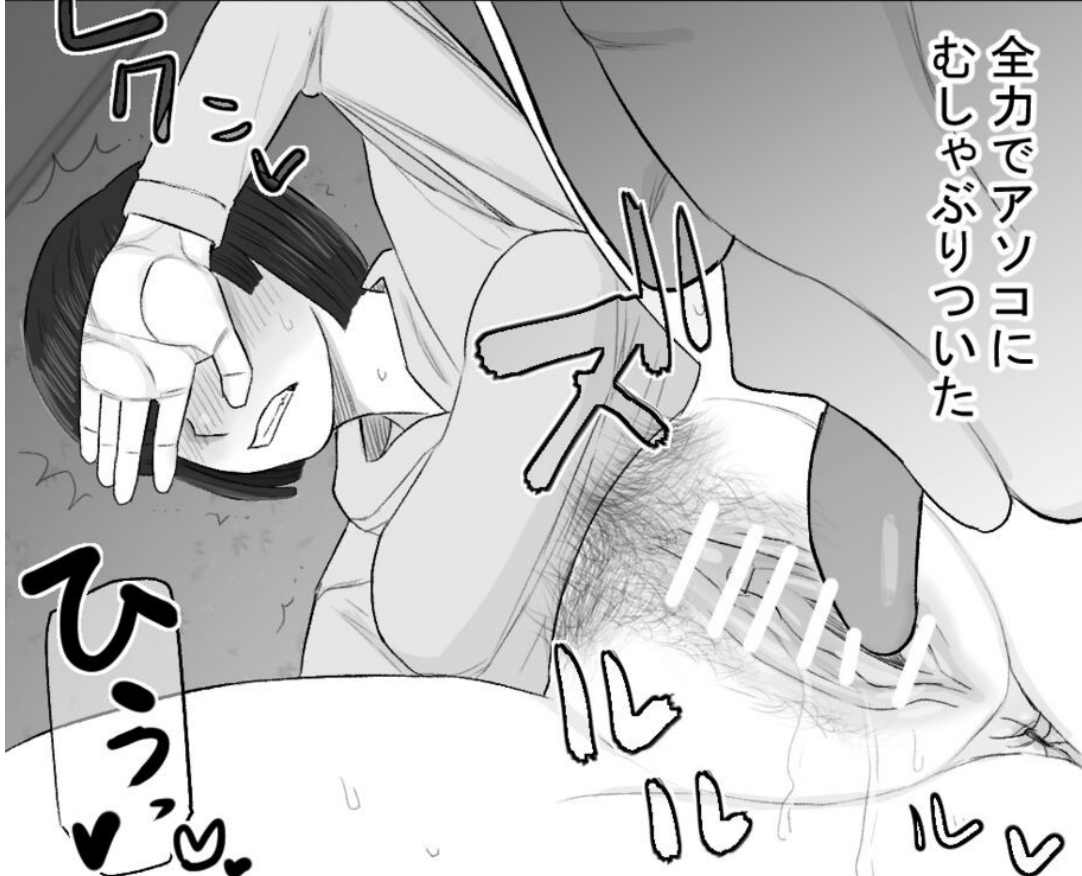
全力でアソコに  
むしゃぶりついた

ズッ

せつっ

ひっ

ルル  
ルル



生理的に嫌悪している  
店長にクンニされてる  
のに

せいのん

あ

ズ

あ

せいのん

私は全くその刺激に  
抗えずにいた

やがて

あゝヒクヒク  
してきた

せいのん

せいのん

あ

あ

い  
い  
い  
い  
い  
い  
メ  
ダ  
メ  
メ

私は絶頂した

せいのん

あ



何とか挿入だけは  
阻止しようとして  
必死に抵抗するが

お・お・  
お願いします！

それだけは  
。。。。!

絶頂し力も入らない  
状態で徐々に  
押し込まれて行く中

何故か突然  
私の脳裏には  
家族の顔と

飯塚君の顔が  
思い浮かんだ

その瞬間  
私の身体は  
店長の肉棒で  
貫かれた

せ

あ



十分濡れていた  
せいか破瓜の  
痛みはほぼ  
感じず

何これ・・・!?



うりゃw

はあ

せり

アトーちゃん  
もう感じてる  
んだ♡



スケベの  
才能あるよ♡

ピストンにも  
思わず喘ぎ声  
が出てしまう  
のだった

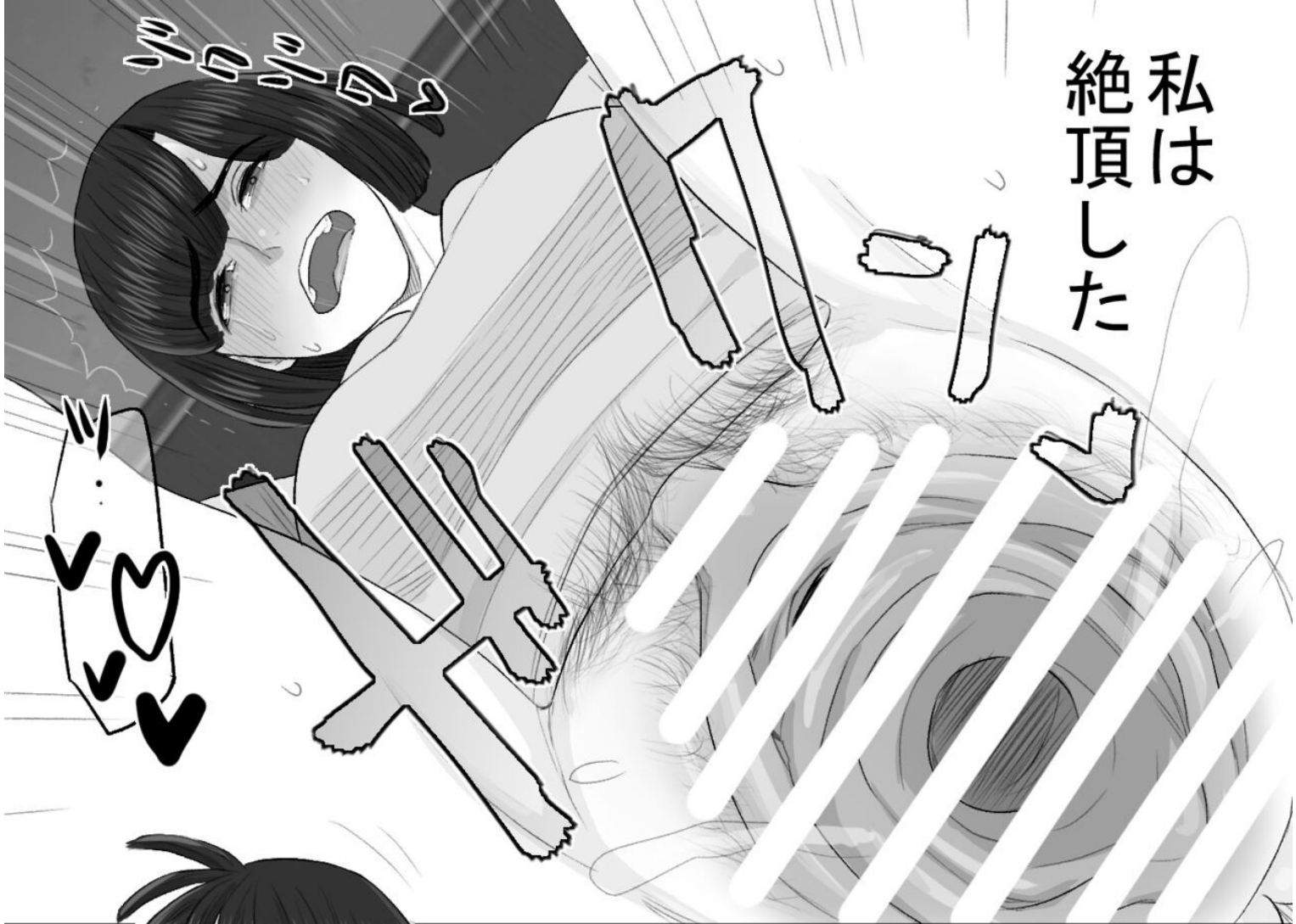
いや  
違・・・



私は  
絶頂した

あゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ



それから  
数時間

はあ  
あゝ

あゝあゝ



絶倫の店長に  
犯され続け

だあ  
や  
ん

せ  
つ  
り  
ん

もう  
許  
さ  
ん  
な  
い

私は何度も  
何度も絶頂した  
◎

こうして——

じゃあ  
ボク先に  
帰るねw

タクシー代  
置いておくから  
アトーちゃんも  
気を付けて  
帰ってねw

私の最低な  
初体験が  
終わった

初めての相手が  
あのイヤらしい  
心底嫌悪する店長だったのに

せりっ

せりっ

せりっ

そのセックスで  
何度も絶頂した自分自身に  
心底絶望した

そして  
今思えば

はっ

私はこの日を境に  
壊れていった  
と思う

はっ

# 数日後——

シヨックで  
学校もバイトも  
無断で休んでいた  
私だったが

いや〜♡

来てくれると  
思ったよ♡

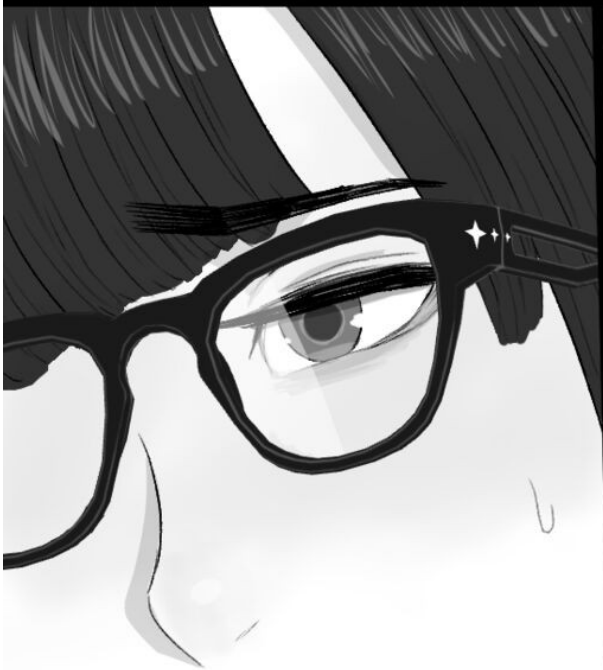
アトーちゃん♡

...

店長の誘いは  
どうしても  
断れなかった



更に数日後——



全く集中  
できずにいた

講義の最中も  
セックスのことで  
頭が一杯で



何とか学校に通える様  
になってはいたもの

そして——

ウミ  
ちゃん

ちよつと  
何かあったの?!

ウミちゃんが  
無断で休むなんて  
超めずらしいじゃん

顔色良くないよ?  
ちゃんと  
ご飯食べてる?

優ちゃん  
ノアさん  
...

無断欠席を続けた  
私を心配して  
友人たちが顔を  
出してくれた

...

ゴメン  
ちよつと  
風邪ひいちやってて  
...

適当な嘘で  
誤魔化すしか  
なかった

ギョ...

60近い店長と  
ずつとセックスを  
していたとは言えず

すると

あ

丁度いい  
ところに

おいしい

そこへたまたま  
飯塚君が  
通りかかった

飯塚君も  
ウミちゃんの事  
心配してたよね

ウミちゃん  
風邪だった  
んだって

あ  
そーなんスね

数日ぶりに好きな人に  
会えて

しかもその人が  
私の心配をしていた  
事が分かって  
嬉しいハズなのに

私の心は  
罪悪感で押し潰され  
そうになってしまい

いや  
いや!

え？  
飯塚君  
何かやらかした？

全然何も  
知らないツスよ

ゴ・・ゴメン

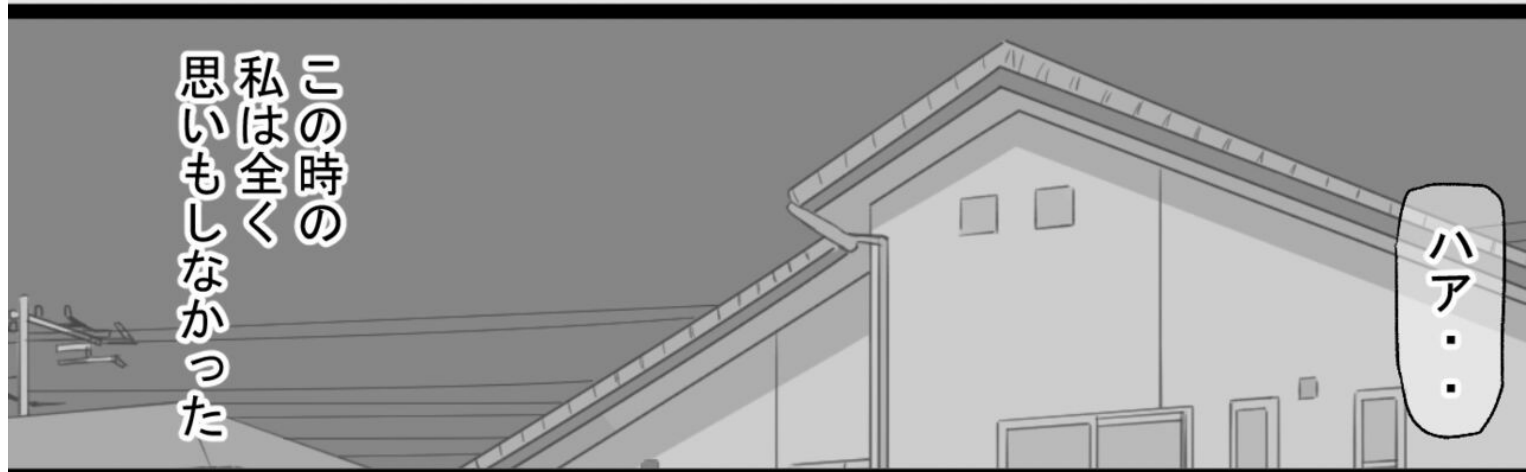
私これから  
バイトだから!

タッ..

その場から  
思わず逃げて  
しまった



アトーさん



ハア...

この時の  
私は全く  
思いもしなかった



まじで  
アトーさんに  
何かやらかした  
のかな...

おハンドル  
ネーム「店長」  
の新作来てる  
じゃーん♡

この人の  
人妻モノの動画  
超ヌケるん  
だよな♡

まさか

こういう時は  
素人投稿モノの  
動画でシコって  
寝よ...

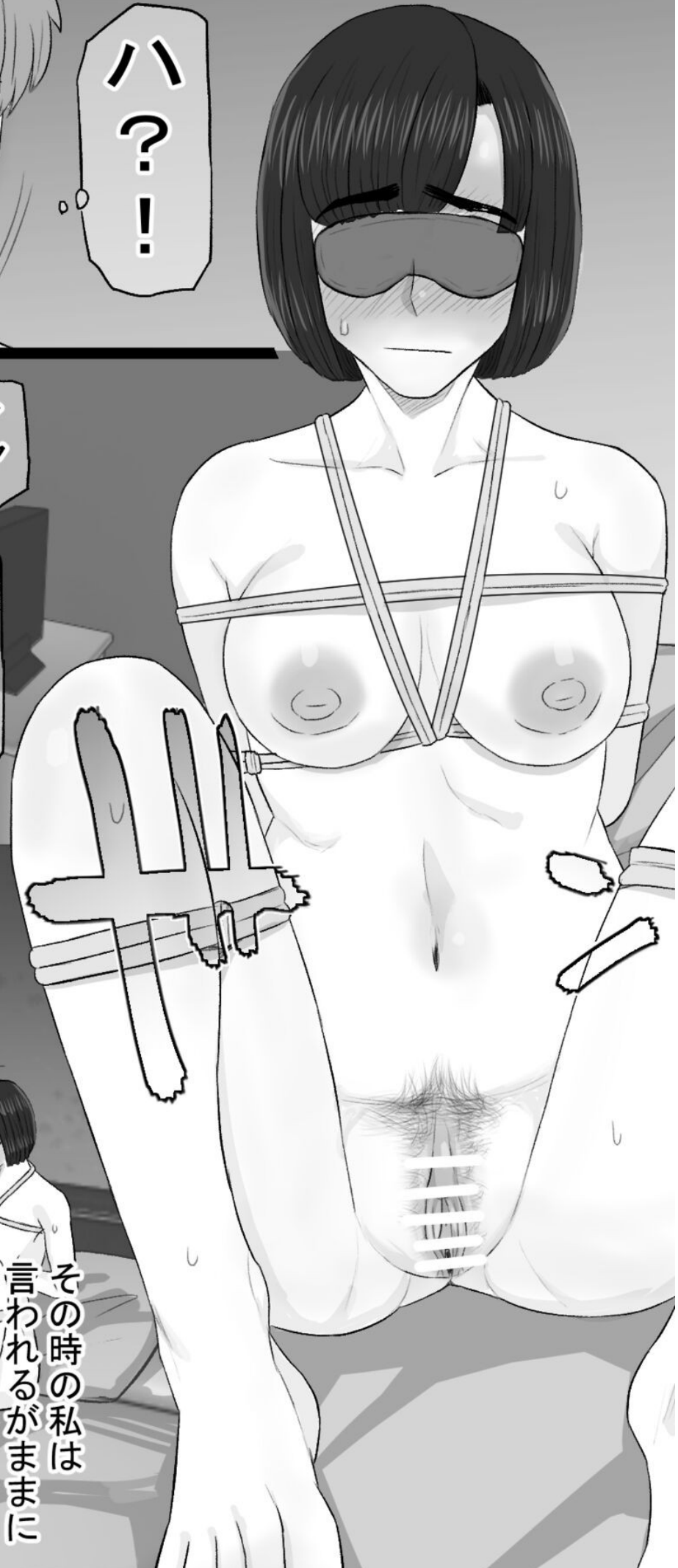
何々  
今度は女子大生  
かスゲーなw

う



え?!  
アトーさん!?

ハ?!



イヤ  
イヤ

似てるだけ  
の別人  
だよな?!

飯塚君に  
私の痴態を見られる  
なんて――



痛くない?

その時の私は  
言われるがままに  
縛られて

だ・  
だ・  
大丈夫です・

撮影されてる事  
にも気づいてなかった

目隠しをされた  
視覚を奪われた  
私は

ドキドキ

不安な気持ちで  
ただそこに  
いるしかなかった

すると

グ  
グ  
グ  
グ

何  
コレ？

店長はバイブ  
らしきもので  
私を責め始めた

グイ..

せつ..  
うあ..

グ..  
グ..  
グ..

それに反応して  
乳首がぷっくり  
と硬くなった

彼は念入りに  
胸を重点的に  
刺激すると

グ  
グ  
グ

目隠しを  
されてるせいか  
感度が上がっており

ゼク...  
く...

ひぐ...  
ぐ...

グググ

手足を縛られて  
身動きが取れない中  
身をよじって  
その快楽に耐えるしか  
なかった

あひ  
♡

ひん  
♡

そして

その責めで  
私のアソコは  
ビチヨビチヨになった

ハ...  
ハ...

ハ...  
ハ...

ゼク...  
く...

ゼク...  
く...

おろ  
w  
アトーちゃん  
スツゲートロトロ  
w

トロオ...  
く...



これだけ濡れてれば

おっ  
入る入る♡

せつ

ぐ

ぐ ぐ ..

ぐ ぐ ..



ゆっくりと私のアソコを責め始めるのだが

これ...  
は...?

店長はそのバイブで

せつ

せつ

せつ



いつもは私を簡単に絶頂させるのに

その時の店長は私がいかない様にわざと浅い快感だけを与え続けていた

せつ

ぐ

ぐ

ぐ

そんな蛇の  
生殺しの様な  
責めで

これじゃ...

はら...♡

はら...♡

こんな玩具じゃ  
足りないっ...

私のもどかしく  
思っている

アトー  
ちゃん♡

!!?

セクニ

コレ  
な〜んだ? W

店長はいきなり  
私の顔に何かを  
押し付けた

目隠しで  
見えなかった  
ものの

あ...  
あ...  
あ...

熱くて  
固い...!

私はソレが  
パンツ越しに  
猛り立った  
肉棒だと  
すぐに分かった

店長はアイマスク  
を取り

それじゃ

何をすれば  
分かるよね？w

——と言ったので

私は

ゴウハ..

手が縛られ  
不自由な中

口で何とか  
店長のパンツを  
下ろすと

中からパンパンに  
膨れ上がった

凶暴な肉棒が飛び出した

いざしを  
啜えようと  
した瞬間

店長は私の頭を掴み

ッ…!!

強引に肉棒を口の中に  
ねじ込んだ

まるでオナホールに  
突っ込むかのように

ズニズニ

んう…

ズニズニ

彼は私の口めがけ  
思い切り腰を振った

そんな物みたいに  
雑に扱われたのに

ズニズニ

ズニ

私は異常に興奮して  
愛液が溢れ出るのを感じた

キョロ



そして暫く――

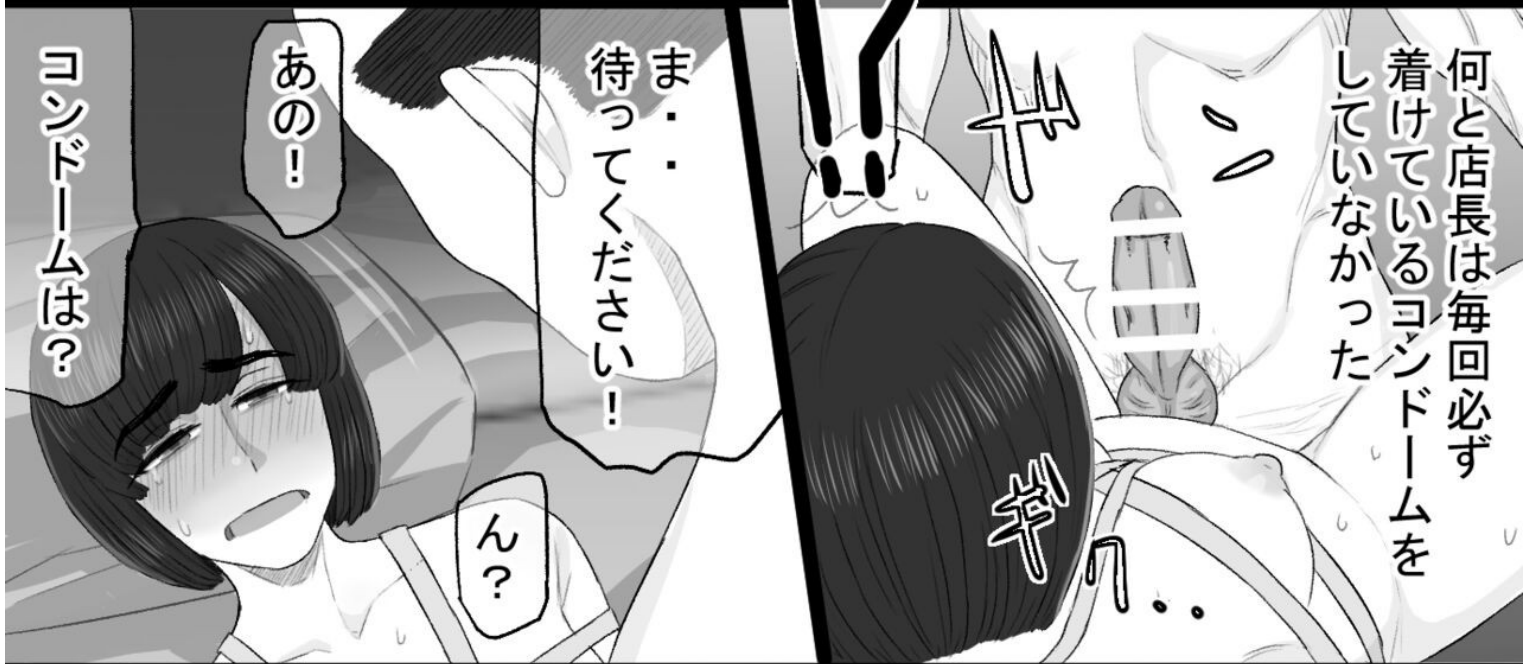


挿入の時を迎えるが

じゃあ  
挿入れるね♡

.....

ハッ



何と店長は毎回必ず  
着けているコンドームを  
していなかった

ま・  
待っててください!

あの!

コンドームは?

ん?



えゝ?  
着けなきゃ  
ダメ? w

だめです!  
お願いします!

万が一妊娠  
したら・

朦朧とした意識で  
なんとか拒否しようと  
するが

間髪入れずに  
強引に挿入した

せつん

あ

生チンポの  
味はどお？w

その凶悪な形を明確に  
感じるようになった

ズ  
ズ

せつん

く

コレ  
すご

初めて味あう生の  
肉棒は非常に熱く

チ

い

い

その時のセックスは  
全く喘ぎ声  
抑えられなかった



焦らされて感度が  
上がったせいなのか

生の感触が思った以上に  
良かったからなのか



とにかく  
今までのセックス  
の中で一番  
気持ちよかった



すげえ・  
滅茶苦茶・  
エロい・



ッ...



それから容赦ない  
ピストンは  
激しさを増す中

あーっ

ハッ  
ハッ

あーっ  
メッ



恐ろしい提案  
をしてきた

ハッ...

! ?



ねえねえ

中を出して  
良い?

突然  
店長は



やめて  
止めて  
お願い

ズッ

ズッ

快樂で意識が  
朦朧な状態でも  
何とか止める様  
懇願するが

ズッ

びくびく..



大丈夫

ちやんと  
責任とって  
あげるから



だから  
一杯気持ちよく  
させてあげるね

その言葉を  
聞いた瞬間

私の口元は  
緩んだ

ニヘラ..

そして  
私は店長の  
射精と同時に  
絶頂した

あーっ♡♡♡♡♡

あーっ♡♡♡♡♡

ううううー

私は身も心も  
店長の色に  
染まっていくのだった

俺  
何やっつてんだ

十回オ♡

ハイ♡

もう一回戦  
いく？w

